

# 高等学校女生徒の職業意識 (II)

熊 倉 弘

The Occupational Orientations of the Girl's High School Students.

HIROSHI KUMAKURA

## 1. 問 題

1) この主題については、さきに岩手大学学芸学部研究年報第8巻(1955)に報告したが、主として職業知識を中心としたものであった。

職業意識の構造は、それ自身単一単純なものではなく、比較的複雑なもので、すくなくとも3つの面がある。すなわち、職業知識、職業感情と職業意欲である。さきの報告は、職業に対する認識理解の程度と職業志望の傾向について考察したものである。

2) 本研究は、女子高校生の職業感情について分析を試みたものである。職業感情とは職業に関する好悪の感情的反応であって、貴賤優劣などの価値感情を伴う場合もあり、職業に対する認識理解の深さとか、ある職業への就職意欲などとは別に、直覚的に起るものであって、知慧や意志をもってしてもどうにもならない経験作用である。そして、職業に対する好悪の感情は、職業の選択や決定に対して大きな役割をもっているものである。

3) 職業に対する好悪の感情が、職業の選択や決定に対して大きな役割を持つとすれば、好悪の感情とは、具体的にどんなものであるかの実体を知ることが重要なことになる。すなわち、ある職業が好きであるということはどういうことによって規定されるのであるかを解明しなければならない。それは青年期の特性よりぐる問題である。

4) 青年は経験的事実よりもかれらの空想を喜ばせる未知のもの新しいものが好きである。とくに女性は日常生活のただ中で「真昼の夢」に生きることができる。また青年は詩情に富む心像が好きであり、想像力によって自己と他人とを発見し、人生と宇宙を見抜くようにもなるともいわれている。そして青年の想像力には、まだ何か単純で矛盾したものがあるが、かれらの表象は絶えず変化するし、愛だとか希望の人生などのような主題のまわりに心像が繁殖するものである。ことに女性のばあいは著明で、好んで少数の主題を限りなく飾り立てる。これほど華麗な心像の群れ、これほどに奔放なものはおそらくないであろう。17才から20才までの期間には、人生の他のいかなる時よりも特権を与えられているといってもよいであろう。M・ドベスは<sup>1)</sup>、「青年の想像の形式は多様で、夢想から神秘的な象徴主義までである。そのうちもっとも特色のあるのはいうまでもなく夢想である。夢想は思春期に愛好される思考の様式の一つとなる。夢想によって、新しい心像を生み、ついに思考をなだよめせる軽い情緒の働きを存分に味わう。思考の漂流は、だんだんに性向や思想や観念と結びつき、ともすればすべりがちな坂道を半ば幻想の世界にひきずりこまれるように見えて、なおその折の感情状態に不思議に調和し

1) モーリス・ドベス 吉倉範光訳：青年期 p.59 白水社。

ている、と述べている。まことに、青年期は感情の年頃である。感情とは、情緒と想像力の結合の結果であって、感情こそは青年心理の宝庫である。女性の職業感情を考える場合にも、ドベスのいう青年期の感情の特性を基盤にして考察することが肝要である。

## 2. 方 法

1) 女子向き職業種50を選んで質問紙法により、(1) あなたの好きな職業と好きな理由、(2) あなたが就きたいと思う職業と、その職業につきたい理由を調査した。50種の職業名は下記のものである。

職 業 名		
1 高等学校教師	18 洋 裁 師	35 速 記 者
2 映画女優	19 薬 剤 師	36 電話交換員
3 看護婦	20 中学校教師	37 ホステス (スチュアデス)
4 生花師匠	21 映画監督	38 保 母
5 音楽家	22 アナウンサー	39 図書館司書
6 医師, 歯科医師	23 通 訳	40 保 健 婦
7 秘 書	24 弁 護 士	41 商業デザイナー
8 小説家	25 演劇俳優	42 デパート店員
9 舞踊家 (バレリーナ)	26 タイピスト	43 観光バスガイド
10 小学校教師	27 画 家	44 科学研究所員 (助手)
11 理容師, 美容師	28 公 務 員	45 自動車運転手
12 助産婦	29 社会事業家	46 ファッション・モデル
13 ステージ・ダンサー	30 大学 教授	47 合唱 団員
14 栄養士	31 テレビ俳優	48 家 政 婦
15 幼稚園教師	32 日本舞踊師匠	49 声 優
16 録行, 会社事務員	33 手 芸 家	50 ラジオ・プロデューサー
17 新聞雑誌記者	34 女流写真家	

2) 調査期日 昭和36年12月

3) 調査対象 盛岡市内の高等学校女生徒 (1~3年) 1,284名

4) 質問紙法という調査方法から生ずる欠陥をできるだけ予防するために、実施に際してできるだけ卒直に、まじめに協力的に応答するように、依頼校の先生方に調査を依頼した。

## 3. 結 果 の 考 察

1) 『あなたの好きな職業、(1つと限定しないで好きなもの全部に○印をつける) についての結果が第1表である。

これは『好きな職業、という発問の形式によってどの職業に高い関心なり、魅力を感じているか、憧れを抱いているか、などを見るのが目的であった。『憧れ』は青年期の特徴の一つであって、それはその個人の将来のあるべき相を心に想い描くはたらきに、多分に感情が結びついたものである。そして、これは人間の生涯の中では、青年期にある自我のみがこの『憧れ』という特殊なはたらきを豊かに抱きかかえているのである。この意味において、現在の女子高校生の職業的憧れの動向が理解できるのでないかと考える。

(第1表) あなたの好きな職業

順位	職業名	好きな数	順位	職業名	好きな数
1.	(16) 銀行会社事務員	627	26.	(11) 美容師	332
2.	(22) アナウンサー	614	27.	(38) 保母	329
3.	(37) ホステス(スチュアデス)	594	28.	(29) 社会事業家	308
4.	(17) 新聞雑誌記者	583	29.	(39) 図書館司書	279
5.	(26) タイピスト	582	30.	(49) 声優	266
6.	(33) 手芸家	536	31.	(10) 小学校教師	261
7.	(23) 通訳	495	32.	(8) 小説家	254
8.	(41) 商業デザイナー	483	33.	(32) 日本舞踊師匠	248
9.	(28) 公務員	475	34.	(21) 映画監督	237
〃	(34) 女流写真家	475	35.	(6) 医師・歯科医師	226
11.	(18) 洋裁師	472	36.	(43) 観光バスガイド	224
12.	(14) 栄養士	455	37.	(9) 舞踊家(バレリーナー)	219
13.	(50) ラジオ・プロデューサー	446	38.	(24) 弁護士	210
14.	(4) 生花師匠	434	39.	(20) 中学校教師	188
15.	(19) 薬剤師	425	40.	(30) 大学教授	186
16.	(7) 秘書	394	41.	(25) 演劇俳優	171
17.	(47) 合唱団員	369	42.	(42) デパート店員	164
18.	(3) 看護婦	358	43.	(31) テレビ俳優	151
19.	(15) 幼稚園教師	358	44.	(40) 保健婦	141
20.	(36) 電話交換員	356	45.	(46) ファッション・モデル	137
21.	(27) 画家	347	46.	(1) 高等学校教師	130
22.	(5) 音楽家	346	47.	(2) 映画女優	124
23.	(35) 速記者	339	48.	(13) ステージ・ダンサー	59
〃	(45) 自動車運転手	339	49.	(48) 家政婦	56
25.	(44) 科学研究所助手	337	50.	(12) 助産婦	13

一般的にいえることは、堅実で平凡な B.G への憧れが高いと同時に、時代の脚光を浴びていると思われる一見はなやかな職業が上位に来ているが、より高い学歴や技術や資格を必要としている職業群が中位にあることと、芸能関係の職業が低位にあることが目立っている。

2) 好きな理由 第1表の順位1から15までの職業について、好きな理由のおもなるものを挙げると、つぎのようになる。

順位 1. (16) 銀行会社事務員

- 安定した職業だから(22)
- 事務的な仕事だから(18)
- 月給が比較的高いから(16)
- 平凡な職業だから(7)
- 規則正しい生活ができるから(7)
- B.Gを夢みている(9)
- なんとなく好き(28)

〃 2. (22) アナウンサー

- 魅力的(18)
- ことばがきれい(14)
- 小さい時からのあこがれ(7)
- 話すことが好きだから(6)
- 上品な職業だから(3)
- はなやかな職業だから(3)
- 知性的な職業だから(3)
- なんとなくすき(33)

〃 3. (30) ホステス(スチュアデス)

- 外国旅行ができるから(49)
- スマートである(8)
- はなやかな仕事である(3)
- なんとなく憧れて(29)
- 女性の最高の職場である(7)
- 社交的な職業である(2)
- 外国人を相手にできる(9)
- 給料がよい(4)
- 近代的で知的な職業

- ♪ 4. (17) 新聞雑誌記者  
 活動的な仕事だから(54)      なんとなく魅力を感じる(29)      働き甲斐がある(11)  
 社会の情勢が早くわかる(5)      いろんな人に会える(5)      自分の能力が発揮できる(3)
- ♪ 5. (26) タイピスト  
 なんとなく好き(27)      女らしい仕事だから(20)      学校で習っているから(8)  
 事務的な仕事が好きだから(5)      楽しそうだから(5)      タイプを打つのが好きだから(5)
- ♪ 6. (33) 手 芸 家  
 手芸が好きだから(51)      美を創造するから(8)      趣味と実益を兼ねる(6)  
 女らしい仕事だから(6)      生活にうるおいを与える(5)      なんとなく好き(11)
- ♪ 7. (23) 通 訳  
 外国人と接することができる(47)      外国語を自由に話せることへの魅力(11)  
 英語が好きだから(10)      外国に行けるチャンスがある(5)  
 外国がよく理解できる(5)      なんとなく魅力がある(17)
- ♪ 8. (41) 商業デザイナー  
 アイデアを生かすことができる(17)      収入が多い(4)  
 将来性がある(4)      なんとなく魅力がある(15)  
 自由で創造的な仕事である(15)      デザイン関係の仕事が好きである(4)
- ♪ 9. (28) 公 務 員  
 安定している(60)      地味でおちついた職業(9)  
 将来性があるから(11)      きちようめんな仕事だから(8)
- ♪ 9. (34) 女流写真家  
 なんとなく魅力的(18)      創造的な仕事(9)      写真をうつすことが好き(30)  
 近代的な仕事である(6)      活動的な仕事(11)      旅行して歩ける(4)
- ♪ 11. (18) 洋 裁 師  
 創造性のある仕事(25)      将来に役立つ(4)      洋裁が好き(28)  
 技術を身につけることはすばらしいことである(3)      自分のものは何でもつくれる(19)  
 服飾について興味があるから(2)      現在習っているから(2)
- ♪ 12. (14) 栄 養 士  
 生活の基本的部分を担当する仕事だから(22)      栄養について研究できるから(9)  
 人びとの健康・体位の向上に貢献するから(17)      女性的な仕事だから(8)  
 調理することが好きである(21)
- ♪ 13. (50) ラジオ・プロデューサー  
 なんとなく魅力がある(12)      やり甲斐のある仕事(10)  
 スピーディで活動的な仕事(5)      独創的である(3)
- ♪ 14. (4) 生花師匠  
 花が好きだから(39)      女らしさがあふれている(31)      なんとなくよい(12)  
 現在習っているから(12)      日本的美を感じるから(12)      おちつきがあってよい(11)  
 芸術的な風雅な職業だから(10)      雰囲気が良い(7)
- ♪ 15. (19) 薬 剤 師  
 なんとなく好き(19)      化学が好きだから(9)      清潔感があって知的でよい(6)  
 薬を調合することが好き(6)      収入がよいから(4)      女性に向けた仕事だから(3)  
 薬品のことを知りたいから(4)      病院勤めが好きだから(3)

(以下略)

以上の諸理由を見ることによって、女子高校生が、どういう点から職業に魅力なり憧れを持っているかがわかる。これをまとめてみると、1つには職業それ自身の持つ性格からくるも

の、2つにはその職業の世評によるもの、3つにはその職業の所要条件と自分の所有条件との関係から理由づけがなされているようである。すなわち

1. 職業の持つ性格の点から

安定した職業だから	月給が高いから	規則正しい仕事だから
平凡な職業だから	ことばがきれい	知的な職業
外国旅行ができる	社交的な職業	外国人を相手にできる
社会の情勢が早くわかる	外国に行くチャンスがある	自由で独創的な仕事
スピーディで活動的な仕事	献身奉仕的職業 など	

2. 職業の持つ世評（prestige）の点から

B. G.を夢みている	魅力的	はなやかな職業
上品な職業	女性の最高の職場	女らしいから
芸術的風雅な職業	社会的地位が高いから	社会の人がみな尊敬しているから など

3. 職業の所要条件と所有条件との一致から

事務的な仕事が好きだから	話すことが好きだから	タイプをうつのが好きだから
学校で習っているから	アイデアを生かすことができる	写真をうつすのが好き
花が好きだから など		

のように、いろいろの点から個々の職業に対して、あるイメージを描いて持っている。そのイメージの内容がいろいろの条件によって規制されていると考えられる。あるものは、職業の持つ性格を強く描くであろうし、あるものは職業の持つ世評を中心にしてイメージを描いているかもしれない。また、あるものはその職業の所要条件を考えて自己の所有条件との比較検討によって描いているかもしれない。あるいはまた、職業的発達においてより未熟のものは、ただなんとなく好きであるという表現に止まっているものもあるかもしれない。要するに「ある職業が好きである」という表現の中には、以上のような諸条件が入っており、また強くはたらいっているということに注目しなければならない。

3) 「あなたがつきたいと思う職業」（いくつでもよろしい）の結果は第2表である。これは「あなたがつきたいと思う職業」という発問によってあなたの好きな職業の中から、現実に自分の就きたいと思う職業を選ばせたものである。

(第2表) あなたが就きたいと思う職業

順位	職業名	希望数	順位	職業名	希望数
1.	(16) 銀行会社事務員	488	17.	(50) ラジオ・プロデューサー	189
2.	(28) 公務員	378	18.	(15) 幼稚園教師	186
3.	(26) タイピスト	359	19.	(39) 図書館司書	179
4.	(17) 新聞雑誌記者	309	20.	(44) 科学研究所助手	175
5.	(22) アナウンサー	300	21.	(35) 速記者	164
6.	(14) 栄養士	292	22.	(3) 看護婦	158
9.	(18) 洋裁師	282	23.	(47) 合唱団員	157
8.	(41) 商業デザイナー	271	24.	(11) 美容師	153
9.	(37) ホステス (スチユアデス)	259	25.	(29) 社会事業家	152
10.	(33) 手芸家	257	26.	(45) 自動車運転手	150
11.	(19) 薬剤師	253	27.	(38) 保母	148
12.	(23) 通訳	240	28.	(10) 小学校教師	130
13.	(7) 秘書	223	29.	(20) 中学校教師	129
〃	(34) 女流写真家	223	30.	(27) 画家	118
15.	(4) 生花師匠	197	31.	(6) 医師・歯科医師	113
16.	(36) 電話交換員	193	32.	(43) 観光バスガイド	107

33. (32) 日本舞踊師匠	103	42. (25) 演劇俳優	64
34. (5) 音楽家	98	43. (9) 舞踊家(バレリーナ)	56
35. (49) 声 優	97	44. (30) 大学教師	54
36. (1) 高等学校教師	86	45. (31) テレビ俳優	53
37. (8) 小説家	84	46. (40) 保健婦	45
〃 (42) デパート店員	84	47. (2) 映画女優	44
39. (21) 映画監督	78	48. (13) ステージ・ダンサー	22
〃 (24) 弁護士	78	49. (48) 家政婦	20
41. (46) ファッションモデル	67	50. (12) 助産婦	7

したがって、職業に対する夢とか憧れのイメージ中から、これこそ自分が現実に就きたいと思う職業を選ばせたもので、いわば夢の中から現実を見つけさせようとしたものである。あるいはこれを職業選択の社会的志向性といってもよいであろう。第2表の結果は、第1表の結果とやや趣きを異にしている。これを「好きな場合」の序列と「就きたい場合」の序列を比較してみると、つぎのようになってあらわれる。

	好き	就きたい	移動		好き	就きたい	移動
銀行・会社事務員	1	1	0	×自動車運転手	23	26	-3
○公務員	9	2	7	保 母	27	27	0
○タイピスト	5	3	2	○小学校教師	31	28	3
新聞雑誌記者	4	4	0	○中学校教師	39	29	10
×アナウンサー	2	5	-3	×画家	21	30	-9
○栄養士	12	6	6	○医師・歯科医師	35	31	4
○洋裁師	11	7	4	○観光バスガイド	36	32	4
商業デザイナー	8	8	0	日本舞踊師匠	33	33	0
×ホステス(スチュアデス)	3	9	-6	×音楽家	22	34	-12
×手芸家	6	10	-4	×声優	30	35	-5
○薬剤師	15	11	4	○高等学校教師	45	36	9
×通訳	7	12	-5	×小説家	32	37	-5
○秘書	16	13	3	○デパート店員	42	37	5
×女流写真家	9	13	-4	×映画監督	34	39	-5
×生花師匠	14	15	-1	×弁護士	38	39	-1
○電話交換員	20	16	4	○ファッション・モデル	46	41	5
×ラジオ・プロデューサー	13	17	-4	×演劇俳優	41	42	-1
幼稚園教師	18	18	0	×舞踊家	37	43	-6
○図書館司書	29	19	10	×大学教授	40	44	-4
○科学研究所助手	25	20	5	×テレビ俳優	43	45	-2
○速記者	23	21	2	×保健婦	44	46	-2
×看護婦	18	22	-4	映画女優	47	47	0
×合唱団員	17	23	-6	ステージ・ダンサー	48	48	0
○美容師	26	24	2	家政助	49	49	0
○社会事業家	28	25	3	督産婦	50	50	0

(註) ○印は上昇 ×印は下降を示す

また、これを前回の研究<sup>1)</sup>と比較すると、つぎのようになっている。

1) 熊倉 弘：高等学校女生徒の職業意識 岩手大学学芸学部研究年報 第8巻 1955。

希望傾向の高いもの（順位についてみると）

希望傾向の低いもの

	1955	1961	移動		1955	1961	移動
タイピスト	1	3	-2	バス車掌	47	32	15
洋裁師	2	7	-5	助産婦	48	50	-2
栄養士	3	6	-3	商業デザイナー		8	
事務員	4	1	3				
薬剤師	5	11	-6				
公認事務員	6	2	4				
アナウンサー	7	5	2				
看護婦	8	22	-15				
美容師	9	24	-14				
学校教官	9	18	-9				

前回10位以内にあったものの中、今回10位以内に止まったものは、タイピスト、洋裁師、事務員、アナウンサーで、

10位以下に止まったものは薬剤師、看護婦、美容師、学校教官で、特に看護婦と美容師と学校教官の順位が大きく下廻つた点は注目されてよい。

また、バス車掌が観光バス車掌として47位から32位に大きく上昇したと、商業デザイナーが前回よりはるかに上位に上った点が注目される。

このように、職業選択の社会的志向性は、個人的動機と結びついている。エヌ・デ・レヴィトフ<sup>2)</sup>は、(1) その職業の作業に対する興味、(2) それに対して才能があるという意識、(3) その作業に対する準備の度合い、(4) それをとおして自己の発達をたかめるとい希望、(5) 友人や両親の忠告とか手本への模倣、(6) 日常生活的な物質的な考慮などがはいつていると考えているが、それらの点については、「就きたい理由」の考察で実証されるであろう。

レヴィトフはまた、同書の中で高学年生の職業選択の態度には、定型安と不安定型とが考えられるといっているが、今回の調査の結果を通してみると、概して女子高校生の職業選択の態度は不安定型の傾向が強いといえる。すなわち、レヴィトフの言を借りていえば(1) いくつかの職業が同時に気に入っている、(2) 性向と才能とのあいだに葛藤がある、(3) 職業選択が理想と現実とのあいだに大きいへだたりがある、(4) 選択に対するさまざまな影響などによって、不安定な状態におかれている。ということが、そっくりそのままあてはまるようである。

4) その職業につきたい理由。第2表のその職業につきたい職業の中から、順位1から15位までの職業についてそのつきたい理由を挙げると、つぎのような理由あげられている。

順位 1 (16) 銀行・会社事務員

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 生活が安定している(22)      | 給料がよいし地味な仕事だから(22) |
| 平凡であるが、規則正しい仕事(17) | B.G.にあこがれいれてるから(5) |
| 将来性があるから(5)        | 就職しやすいから(3)        |
| おちついた職業だから(2)      | 自分の性質に合いそうだから(5)   |
| 事務的な仕事が好きだから(16)   | なんとなく懂れている(13) など  |

” 2 (28) 公務員

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 生活が安定している(56)      | 将来性があるから(11)       |
| 恩給がつくし、老後の心配がない(6) | 事務的な仕事が好きだから(5)    |
| なんとなく懂れている(6)      | 男女平等で自由であるから(3) など |

” 3 (26) タイピスト

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| タイプを習っているから(5)   | 自分に向いていると思うから(4)  |
| 女性の職業として最適だから(3) | 技術が身につくから(4)      |
| 仕事が楽しそうだから(4)    | なんとなく懂れている(10) など |

2) エヌ・デ・レヴィトフ著：柴田駒林八重樫訳 教育心理学 新理論社 1662 p.351

- 〃 4 (17) 新聞雑誌記者  
 活動的でおもしろそう(21) 働きがいのある仕事である(6)  
 社会の真実をつかむことができる(4) 社会正義をつらぬく仕事(3)  
 自分の性格に合っているようだから(3) 有名人に会えるから(3)  
 なんとなく憧れている(11) など
- 〃 5 (22) アナウンサー  
 女性としてやりがいがある(4) 小さい時からの憧れ(8)  
 自分の才能を生かせる(1) 収入が多い(1)  
 時代のトップを行く仕事だから(2) なんとなく憧れている(14) など
- 〃 6 (14) 栄養士  
 食生活の改善ができる(15) 多くの人たちの健康を守る(6)  
 家庭人となってから役立つ(14) 料理することが好き(5)  
 辺地の生活の向上をはかりたい 自分が適しているから(5) など
- 〃 7 (18) 洋裁師  
 洋裁が好きだから(19) 将来役にたつから(9)  
 技術を身につけることができる(4) 自分に適しているから(2)  
 女らしい仕事であるから(2) など
- 〃 8 (41) 商業デザイナー  
 デザインの仕事が好きだから(11) 創意工夫ができるから(14)  
 図案絵画を趣味としているから(5) 夢のある仕事であるから(3)  
 収入が多いから(3) なんとなく憧れている(4) など
- 〃 9 (37) ホステス(スチュアデス)  
 外国へ行けるから(29) なんとなくすばらしい仕事である(7)  
 収入がよいから(3) 旅行が好きだから(3)  
 外国のことがよくわかる(3) はなやかな仕事である(2) など
- 〃 10 (33) 手芸家  
 創造の楽しみがある(5) 自分の性格に合っている(5)  
 手芸が好きであるから(23) 趣味と実益をかねることができる(3) など
- 〃 11 (19) 薬剤師  
 女性に向けた職業だから(6) 化学実験が好きだから(4)  
 薬品を取扱ってみたい(3) 収入がよいから(3)  
 病人を助けることができる(2) 自分の好みに合っている(2)  
 清潔感があるから なんとなく好きである(13) など
- 〃 12 (23) 通 訳  
 外国人と接することができるから(23) 外国に行ける可能性がある(10)  
 語学が好きで社交的素質がありそうだから(6) 英語が好きだから(4)  
 収入がよいから(2) 将来性があるから(2) など
- 〃 13 (7) 秘 書  
 なんとなく魅力を感じる(9) 才能を発揮できる(3)  
 責任のある仕事だから(2) スマートな感じを受ける(3)  
 自分に向いていると思うから(4) 女性的な仕事だから(3) など
- 〃 〃 (33) 女流写真家  
 美の創造の楽しみがある(4) 写真をうつすことが好きだから(18)  
 自由に仕事ができるから(2) 活動的な仕事だから(2)
- 〃 15 (4) 生花師匠  
 花が好きであるから(17) 生花をならっているから(9)



風雅な仕事であるから(4)                      趣味と実益をかねることができる(6)  
 自分の性にあっている(3)                      女らしさがあふれているから(3) など

(以下略)

以上の諸理由から、女子高校生の職業希望の理由が奈辺にあるかがうかがうことができよう。これを、「好きな職業」の場合のように、(1) 職業の持つ条件、(2) 職業の持つ世評、(3) 本人の条件に理由を類別すると、あらましつぎのようになる。

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p>1. 職業の持つ条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活が安定している</li> <li>地味な仕事だから</li> <li>平凡であるが地味な仕事</li> <li>将来性がある</li> <li>就職しやすいから</li> <li>おちついた職業である</li> <li>技術が身につく</li> <li>社会正義をつらぬく</li> <li>有名人に会える</li> <li>収入が多い</li> <li>生活の改善ができる</li> <li>創意工夫ができる</li> <li>外国へ行ける              など</li> </ul> | <p>2. 職業の持つ世評</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>BGに憧れている</li> <li>男女平等で自由である</li> <li>女性の職業として最適</li> <li>仕事が楽しそうだから</li> <li>活動的でおもしろそう</li> <li>はなやかな仕事である</li> <li>上品で風雅な仕事              など</li> </ul> | <p>3. 本人の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の性格に合っている</li> <li>事務的な仕事が好き</li> <li>タイプを習っているから</li> <li>小さい時からの希望</li> <li>自分の才能を生かせる</li> <li>その仕事が好きだから              など</li> </ul> |
|---|--|--|

岸戸護氏<sup>1)</sup>は、職業志望の理由を、職業に対する興味、社会評価(名誉性)、収入、安易性自由性(自主性)、父兄か家の要求、人格性の7つをあげているが、本調査の結果では特に職業に対する興味、自由性、安易性が強く出ていることは上述の類別からうかがうことができよう。

さらに岸戸氏は、第1に女子は男子よりも現実的傾向、自己中心的傾向が強い。すなわち、生存維持の目的意識強く、社会的目的意識が低い。したがって、万事においてひかえ目の傾向が示されているとともに、人格的目的意識も低く、概して現実的である。第2に女子は概して現実的実利的で経済第一主義の態度をとる。と報告されている。本研究においては女子高校生という比較的選択されたものを対象としたので、若干の差異を示している。すなわち、社会的目的意識も人格的目的意識もかなり強く出ていることからうかがうことができる。しかし、概して言えば現実的実利的であることは事実である。

要するに、将来何ものになるかは青年にとって重大な問題であるが、男女間に著しい相違がある。男子にとってはそれは終生の職業の決定を意味し、娘にとって卒業と結婚との間のギャップをどう埋めるかである。したがって男ほど真剣ではない。もし職業を選ぶとすれば結婚後も継続できるものを選ぶ。これはごく自然なことである。つまり、それほど積極的に打ちこまねばならない仕事でなく、また危険を伴う仕事でもなく、社会的意義もあり、他人のたすけにもなるというような仕事を選ぶ。すなわち、教師、保母、社会奉仕の事務といったところが、娘たちの心に訴えるわけである。男性がしばしばその実力以上の職業を選ぼうとするのに反して、女性はそれほど野心的でない普通で自分の力の及ぶ仕事で満足しようとする。これは女性の心理の一般的特徴で、この傾向が、「就きたい職業」及び「就きたい理由」の中によく示さ

1) 岩戸護：モーラル構造序説 発達篇 経営管理研究会 1961 p.137-139

れているといえよう。

### 5) 職業の現実化率

自分の好きな職業の中から、自分の就きたい職業を選択するとき、いろいろな条件によって取捨選択が行われることになる。すなわち、職業の社会的安定度とか収入、将来性とか、または自己の性格とか家庭的環境とかの条件によって規制が行われてしまう。そこで、職業の現実化率というものが考えられる。理想としては高い序列にある職業が、実際に選択されないでしまうとか、反対に理想としては比較的低い序列にある職業が、高い選択率を示すという現象があらわれてくる。第3表はそのことを如実に示しているといえよう。

(第3表) 職業の現実化率

順位	職 業 名	$\frac{A}{B} \times 100$	順位	職 業 名	$\frac{B}{A} \times 100$
1.	(28) 公務員	80	26.	(34) 女流写真家	47
2.	(16) 銀行会社事務員	78	27.	(11) 美容師	46
3.	(20) 中学校教師	69	28.	(4) 生花師匠	45
4.	(1) 高等学校教師	66	〃	(38) 保 母	45
5.	(14) 栄養士	64	30.	(3) 看護婦	44
〃	(39) 図書館司書	64	〃	(37) ホステス(スチュアデス)	44
7.	(26) タイピスト	62	〃	(45) 自動車運転手	44
8.	(18) 洋裁師	60	33.	(47) 合唱団員	43
〃	(19) 薬剤師	60	34.	(32) 日本舞踊師匠	42
10.	(41) 商業デザイナー	57	〃	(46) ファッションモデル	42
11.	(7) 秘 書	56	〃	(50) ラジオ・プロデュー	42
12.	(12) 助産婦	54	37.	(25) 演劇俳優	38
13.	(36) 電話交換員	54	38.	(13) ステージダンサー	37
14.	(17) 新聞雑誌記者	53	〃	(24) 弁護士	37
15.	(15) 幼稚園教師	52	40.	(48) 家政婦	36
〃	(44) 科学研究所助手	52	〃	(49) 声 優	36
17.	(42) デパート店員	51	42.	(2) 映画女優	35
18.	(6) 医師・歯科医師	50	〃	(31) テレビ俳優	35
〃	(10) 小学校教師	50	44.	(27) 画 家	34
20.	(22) アナウンサー	49	45.	(8) 小説家	33
20.	(23) 通 訳	49	〃	(21) 映画監督	33
〃	(35) 速記者	49	47.	(40) 保健婦	32
〃	(29) 社会事業家	49	48.	(30) 大学教授	29
24.	(33) 手芸家	48	49.	(5) 音楽家	28
〃	(43) 観光バスガイド	48	50.	(9) 舞踊家(バレリーナ)	26

註：A=あなたの好きな職業の総数(第1表) Bあなたのつきたいと思う職業の総数(第2表)

この職業の現実化率による順位と、第2表の就職希望順位とを比較対照するとつぎのようになつてあらわれてくる。

	第2表 順位	第3表 順位	移 動		第2表 順位	第3表 順位	移 動
銀行・会社事務員	1	2	-1	栄 養 士	6	5	1
公 務 員	2	1	1	洋 裁 師	7	8	-1
タイピスト	3	7	-4	商業デザイナー	8	10	-2
新聞・雑誌記者	4	14	-10	ホステス(スチュアデス)	9	30	-2
アナウンサー	5	20	-15	手 芸 家	10	24	-14

薬 劑 師	11	8	3	医 師・歯 科 医 師	31	18	13
通 訳 師	12	20	- 8	観 光 バ ス ガ イ ド	32	24	8
秘 書 書 生	13	11	2	日 本 舞 踊 師 匠	33	34	- 1
女 流 写 真 家	14	26	-13	音 楽 家	34	49	-15
生 花 師 匠	15	28	-13	声 優	35	40	- 5
電 話 交 換 員	16	12	4	高 等 学 校 教 師	36	4	32
ラ ジ オ ・ プ ロ デ ュ サ ー	17	34	-17	小 説 家	37	45	- 8
幼 稚 園 教 師	18	15	3	デ パ ー ト 店 員	38	17	20
図 書 館 司 書	19	5	14	映 画 監 督	39	45	- 6
科 学 研 究 所 助 手	20	15	5	弁 護 士	39	38	1
速 記 者	21	20	1	フ ァ ッ シ ョ ン モ デ ル	41	34	7
看 護 婦 人	22	30	- 8	演 劇 俳 優	42	27	15
合 唱 団 員	23	33	-10	舞 踊 家 (バ レ リ ー ナ)	43	50	- 7
美 容 師	24	27	- 3	大 学 教 授	44	48	- 4
社 会 事 業 家	25	20	5	テ レ ビ 俳 優	45	42	3
自 動 車 運 転 手	26	30	- 4	保 健 婦 人	46	47	-1
保 母	27	28	- 1	映 画 女 優	47	42	5
小 学 校 教 師	28	18	10	ス テ ー ジ ・ ダ ン サ ー	48	38	10
中 学 校 教 師	29	3	26	家 政 婦 人	49	40	9
画 家	30	44	-14	助 産 婦 人	50	12	38

この結果をみると、第2表の順位と第3表の順位との間に著しい差を示しているいくつかの職業群があることに気づく。すなわち、職業の現実化率（第3表）で、大きく上昇しているものには、助産婦、高等学校教師、中学校教師、デパート店員、演劇俳優、図書館司書、医師・歯科医師、小学校教師、ステージ・ダンサーなどがある。これに反して、大きく順位の下降したのものには、ホステス（スチュアデス）、ラジオ・プロデューサー、アナウンサー、音楽家、手芸家、画家、女流写真家、生花師匠などがある。そしてこれらの下降グループの職業はほとんどすべて「好きな職業」では上位グループに属した職業である点で注目されてよいと思う。

このように、「好きな職業」と「就きたい職業」との間のくいちがいはなぜ生ずるのであるうか。「好きな職業」の場合はひとつの職業に対するあるイメージが、さらに新しい心象を生み、ドベスの言う「思考の漂流」がおこなわれるという女性感情の特性にもとづいて好きな職業が生まれるという事情に由るのではあるまいか。

これに対して「就きたい職業」の場合は、欲求と自己の性向と才能の分析からの一種の結論として、あるいは自分の人格の一般的特徴づけからの結論として、すなわち自己概念（Self-Concepts）の確認からの結論として就きたい職業が選択されるという事情が作用していることによるのではあるまいか。しかしこれらの問題については既に牛島氏が明快に答えられている。

牛島義友氏の研究<sup>1)</sup>によると「日本の青年の職業選択の条件は、職業の社会的安定度、すなわち、その職業の収入とか将来性というような点から考えられた安定度が第1にあげられており、第2は、自分の好みに合うものをあげている。また、職業に対する態度は、職業生活の目的とか職業に対する尊敬といった職業倫理に関した点ではかなり高度な道徳的な態度をとっている。しかし、具体的に選ぶ場合には、何よりも社会的安定度を重要視し、現実の可能性の多い仕事を選ぼうとしている。すなわち、かれらは、職業理想は、理想的なものを描き、現実の

1) 牛島義友：西欧と日本の人間研究 1961 金子書房 p. 333-340。

職業態度においては、もっとも具体的な安定的態度をとっている。」と報告されている。したがって、高校生たちは個性を生かすことよりも、社会的安定度を重要視し、個性の主張はすくない。故に、職業に関して、現実的態度はをとっているが、現実と理想、社会的安定と個性を生かすことの間、一種の矛盾を感じているのではないかと考えられる。

#### 4. 要 約

1) 女子高校生の「好きな職業」は、堅実で平凡な事務的な仕事（銀行・会社事務員、公務員、タイピストなど）と外見はなやかな職業（アナウンサー・スチュアデス・新聞雑誌記者など）が上位にあり、より高い学歴や専門の技術や資格を必要とする職業（通訳、商業デザイナー、栄養士、薬剤師、学校教員など）が中位に、芸能関係の職業が下位にある。

2) 「好きな理由」は職業の持つ性格とか職業の持つ世評による理由が強く出ており、個性的人格的理由が比較的弱い。

3) 「就きたい職業」は、事務的職業（銀行・会社事務員・公務員など）マス・コミュニケーション関係（新聞雑誌記者・放送など）、専門技術的職業（栄養士、洋裁師、薬剤師）、などサービス職業（ホステス、通訳など）が上位にあり、看護婦、美容師、学校教師のように資格を必要とする職業は中位にとどまっている。

4) 「その職業に就きたい理由」は職業の持つ条件、職業に対する世評と本人の条件のいずれかに基づいているが、現実的傾向や自己中心的傾向が強く、社会的目的意識と人格的目的意識が比較的弱い傾向を示している。

5) 要するに、女子高校生は職業選択にあたり、現実的態度をとり、個性を生かすことよりも、社会的安定度を重要視し、個性の主張がすくない。したがって、理想と現実、社会的安定と個性を生かすことの間、一種の矛盾を感じている。